

病院短信

『そつと寄り添う』

3病棟 看護師長 小川 育子

寒かった冬が嘘のように、暖かい日差しが降り注ぐ季節になりました。町中がピンク色に染まり、院庭へ一歩踏み出せば、まさに「春爛漫」という言葉がぴったりな景色が広がっています。お花見や自然との触れ合いが楽しいころですが、気温の寒暖差や気圧の大きな変化に身体が対応しきれず、精神的に不安定になりやすく、認知症の症状が一時的に変化しやすい時期ともいわれています。

具体的には、意味不明な発語・行動が増える、落ち着きがなくなる。日中もウロウロ・ソワソワ、食思低下、夕方になると徘徊や帰宅願望、暴言、暴力、妄想が強くなります。こうした春先の変化にそつと寄り添い、そつと声をかけ、試行錯誤しながら対応をしています。

もし怒っている方がいたら「そつですか」「分かりました」「すみませんでした」と、そつと寄り添いながらも、これ以上怒りが増さないように速やかにその場を離れたり。帰宅願望の方には「いつてらっしゃい」「今日は天気が悪いから明日の方がよいかと」「そろそろ、お昼ご飯だけど、食べてからにはは」などと、さつぱりと明るく伝えます。「財布がない」と繰り返して訴える方には「それは、大変ですね、探してきます」「今、すぐ確認します」と、真剣な表情でその都度答えます。「ここに 虫がいる」と床をのぞきこんでいる方がいたら「本当だ」と混乱しないように一緒にのぞきこみます。

何度も同じことを言っても、おかしなことを言っている方がいたら、決して否定せず、ニコニコと傾聴します。そして話の内容や表情によっては、真剣に話しを聞いて、まずは、安心感を。その中でも表情が険しく、怒りがおさまらず、徘徊が止まらず、突然に走り出す方がいます。患者さん本人が転倒して骨折や脳挫傷、患者さん同士のトラブルでのけが、ケア時の強い抵抗など色々心配になります。その時は、カンファレンスで対応方法を皆で考えます。対応方法により、患者さんに穏やかな笑顔がみられると、心よりホッとします。

そして、その方が何もなかったような表情で、ご家族の方とにこやかに面会されていると、本当に嬉しく思います。



日常の一コマ



今月は1病棟の仁さん(82歳)をご紹介します。仁さんは3人兄弟の3番目です。東京都生まれ育ち、高校卒業後に東芝に就職、26歳の時にご結婚されました。東芝では半導体の営業マンとして、日本や世界各国(ヨーロッパやアジア)など回られて功績を残し、本社の部長を務められました。営業マンなので色々な美味しいお店を知っており、「ウナギだったら〇〇のお店かな」「すき焼きだったら〇〇のお店がいい」「海外ではやっぱりステーキが一番美味しかったよ」と話してください、とてもグルメな仁さんです。そして趣味も多く、ゴルフにスキーやテニス、車の運転、飲み会、カラオケなどなど、とても多趣味です。その後は関連会社の役員や支店長を経て、61歳で退職されました。退職後も奥様と日本各地に旅行に行ったり、パーティーを開いたり楽しく過ごされていました。

そして平成27年に散歩中に転倒し、硬膜下血腫の手術をしました。仕事からお酒を飲む機会も多く、若い頃からお酒を飲むことが大好きでしたが、平成28年にアルコール性肝硬変の診断を受け、生活習慣病の改善のため入院されました。物忘れも目立ち認知症症状も出始めたため、自宅での療養困難となり、当院に入院されました。入院当初は、歩き回りや帰宅願望も強く不穏な日々が続いていました。一時体力も食欲も落ちてしまい、食事も摂取できない時期もあり、ベッド上で過ごされていましたが、今では食事も自力で摂取し毎回完食されます。そして体力も戻りとても元気になり、車イスも自操されていて、本当に嬉しく思います。



そして仁さんと言えばとてもとても愛妻家です。奥様との馴れ初めなどをたずねると、色々とお話してくれます。特に結婚式の話などはニコニコと嬉しそうに、優しい目をして話してくれます。そんな仁さんの表情を見ていると私達も気持ちが和みます。これからも仁さんが安心して日々を過ごして行けるように、微力ながらお手伝いさせていただき、頑張りたいと思います。

1病棟 介護福祉士 笹瀬 英子

検査科 だより

臨床検査技師 木村 収実

今シーズンはB型インフルエンザウイルスが流行しました。報道などで「インフルエンザ感染は1医療機関当たり〇〇人、前週から増加」といった表現を耳にすることがあります。この数値は厚生労働省の感染症発生動向調査によって算出されています。全国であらかじめ指定された医療機関(小児科・内科など)が1週間の患者数を保健所に報告します。保健所では次の計算式で「定点あたりの患者数」を計算します。

定点あたり患者数 = 報告患者数 ÷ 定点医療機関数
例えば、報告患者数200人、定点医療機関数5施設の地域の場合、200÷5=40となり1医療機関あたり平均40人が1週間で診断されたことを意味します。

インフルエンザの流行の目安は次の通りです。
1.0人以上：流行入りの目安
10人以上：注意報レベル
30人以上：警報レベル
例の40.00人は警報レベルを超えている状態になります。



埼玉県は毎週水曜日に県内13保健所+4市別に前週の定点報告が公開されています。当院では、春日部保健所の定点の増減を参考にしながら、予防対策を行っています。面会の際、体温計測と自主的にマスクを着用してくださるなど、皆様のご理解とご協力により、今シーズンはインフルエンザの院内感染を防ぐことができそうです。ありがとうございました。

いきいき看護・介護

3病棟 看護主任 恩田 律子

寒さも和らぎ、日中はだいぶ暖かくなってきましたね。春の空気が心地よく、外出の機会も増えてくる季節ですね。外出時の移動手段には、電車、バス、徒歩、車とありますが、皆様は何を使われることが多いですか?やはり車で移動することが多いでしょうか。車での外出は、長時間同じ姿勢で運転することで体がこわばり、腰や足、背中や首が「あいたたた」となってしまうこともしばしばありますよね。足の血流が滞り、深部静脈血栓症(エコノミー症候群)をおこしやすく、また、降車時にふらついて転倒しやすくなるもあります。外出を楽しむために運転前、休憩中のストレッチが効果的です。

- ①肩をすくめてストンと落とす動きを3回ほど繰り返し、
- ②首は無理のない程度で左右にゆっくり倒します。
- ③足首は座ったまま上下に動かし、血流を促しましょう。
- ④手足首をぶらぶら振ります。

運転中は30分〜1時間に一度休憩を取り、車から降りて背伸びや軽い足踏みを行うと疲労予防になります。降車時は急に立ち上がりながら深呼吸してから動くことが大切です。ふくらはぎを揉んだり、肩を回したりも効果的です。春は活動量が増える分、体への負担も大きくなります。「疲れた」と感じたら無理せず休むなどで、どうぞご愛ください。日々の健康管理を大切に、無理のない外出を楽しんでください。

